

Title	リードタイム短縮の方法論
Sub Title	
Author	坂爪, 裕(Sakazume, Yuu) 河野, 宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1084号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1084">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1084</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

坂爪 裕

主査 河野 宏和

副査 小野桂之介

柳原 一夫

丹羽 明

所属

河野 宏和 研究室

## リードタイム短縮の方法論

本研究では、受注から製品納入に至る部門横断的な一連の業務プロセスを対象として、リードタイム（以下L/Tと表記）が長期化する基本的原因を実際の企業への個別事例調査に基づいて整理するとともに、いかに各企業がこれら一連の業務プロセスの短縮を行ってきたか（あるいは、今後行っていくべきか）を分析することで、以下に示す3つの点に焦点をあてたL/T短縮の方法論の構築を行った。

- ・対象業務プロセスの調査／分析方法
- ・L/T短縮改善の着眼点
- ・L/T短縮改善活動の進め方

「対象業務プロセスの調査／分析方法」は、L/T短縮の前提として、「どのようにまとめればL/T長期化の原因が分析しやすくなるか」という観点から、具体的な調査フォーマットを考案し、その調査結果に対して、どのような視点で分析／検討を行っていくかをまとめたものである。「L/T短縮改善の着眼点」は、上記のL/T長期化の原因に対して、「具体的なL/T短縮改善アイデアを考える上での問いかけ」を効果的かつ網羅的に行い、大きな改善点が潜在しているにもかかわらず発見できなかった、というような事態を少しでも回避するための着眼点をまとめたものである。最後の「L/T短縮改善活動の進め方」は、これら具体的な方法論の前提として、L/T短縮改善活動を推進していくマネジメントの立場からの望ましい改善の進め方（ステップ）について、私見を交えて一般的な原則を要約したものである。